

2020 年度春セメスター 授業評価結果

1. 実施率

表 1 授業評価実施率

	対象科目数	実施科目数	実施率 (19 秋セメ実施率)
共通科目	51	51	100% (100%)
看護学部	48	48	100% (100%)
社会福祉学部	77	77	100% (100%)
リハビリテーション学部	76	76	100% (100%)
計	252	252	100% (100%)

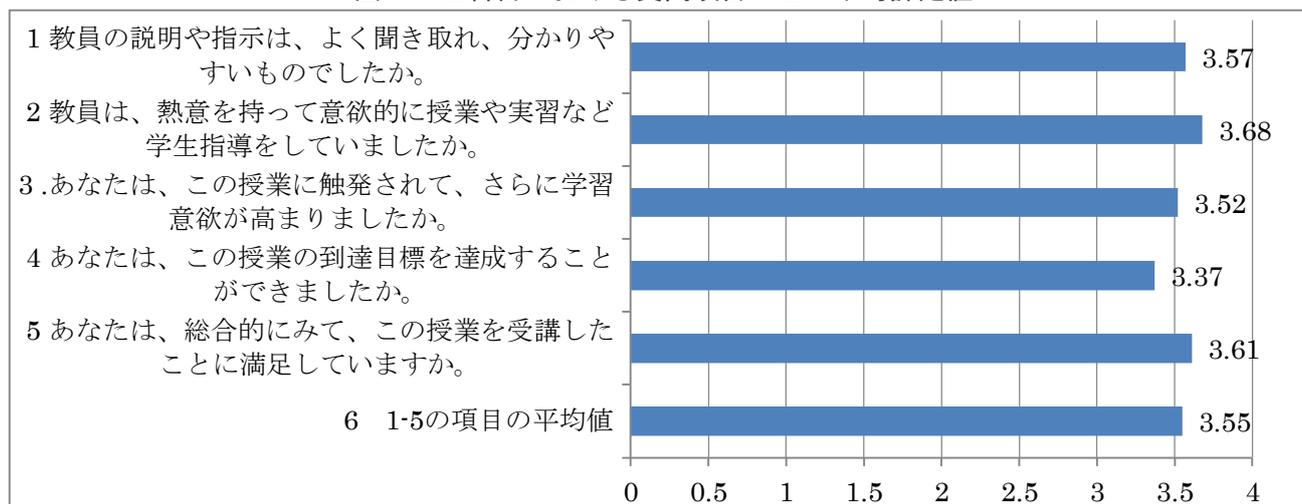
実施結果について

COVID-19 感染拡大に伴い、オンラインによる遠隔授業となったり、対面と遠隔を組み合わせた授業となったり、学生・教員共に大変な 2020 年度春セメとなったが、授業評価は全科目で予定通り実施された。今後も実施率 100%を維持し、授業のさらなる改善・向上に努めていきたい。

2. 授業評価結果

評価票の評価について「そう思う」(4 点)～「そう思わない」(1 点)と得点を与え、質問項目ごとに平均評定値を算出した(図 1～図 5)

図 1 全科目における質問項目ごとの平均評定値

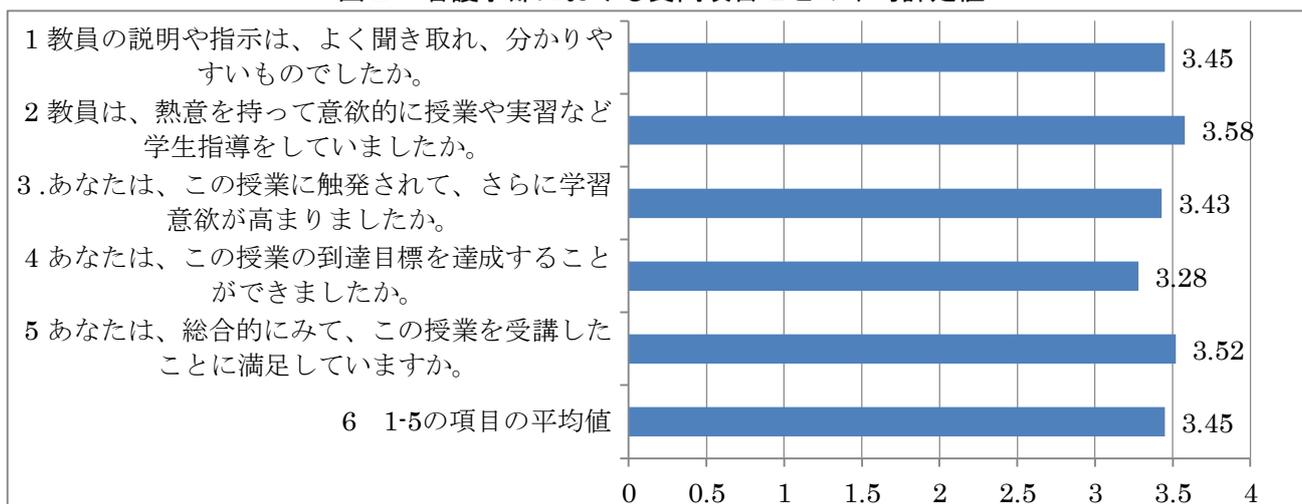


2019-2020 春セメ平均評定値

問	2019	2020
1	3.53	3.57
2	3.62	3.68
3	3.45	3.52
4	3.40	3.37
5	3.53	3.55

遠隔・対面と大変な対応が迫られる春セメの授業でしたが、質問 1・2・3・5 は昨年度春セメを上回る平均評定値となっています。ただし、4「あなたは、この授業の到達目標を達成することができましたか。」だけは、昨年度を少し下回っています。3「あなたは、この授業に触発されて、さらに学習意欲が高まりましたか。」は昨年度より高い値になっていることと合わせて考えますと、学習意欲は高まったもののやはりオンラインなど非日常的な学修環境の中では到達目標の達成は厳しかったのであらうと思われま。秋セメもオンラインと対面の授業の組み合わせとなりますので、さらに到達目標の達成を念頭に授業改善・向上に努めていきます。

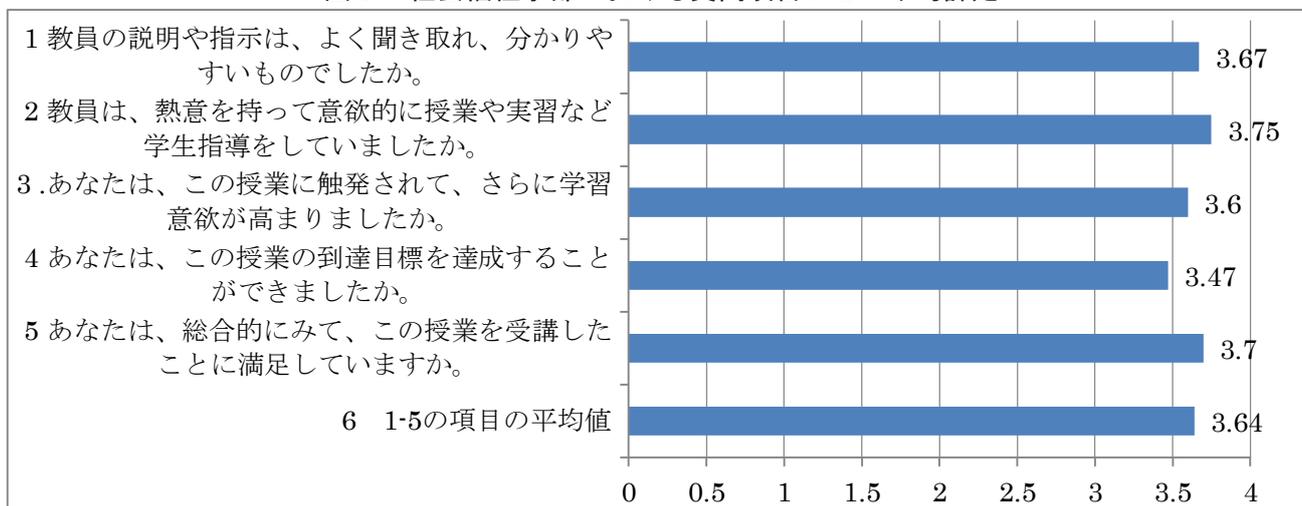
図2 看護学部における質問項目ごとの平均評定値



看護学部 FD 委員会のコメント

春セメのオンライン授業での結果と昨年度の比較において質問2・3・5についてそれぞれ若干平均評定値は上昇しました。コロナ禍においても教員の教授意欲に触発され学習意欲の維持や総合的な学修満足は得られたと考えられます。ただ、質問4の平均評定値は、昨年度と比べ低下しています。このことから、慣れない教育展開、定期試験によって学生のみなさんには学修目標の達成に不安があったかもしれません。また、項目1～5の平均値の全学及び他学部との比較では、看護学部は低い傾向にありますので、秋セメ以降のハイブリット式の教育展開において学生個々の学習環境や到達度に留意して、教育改善に取り組みたいと思います。

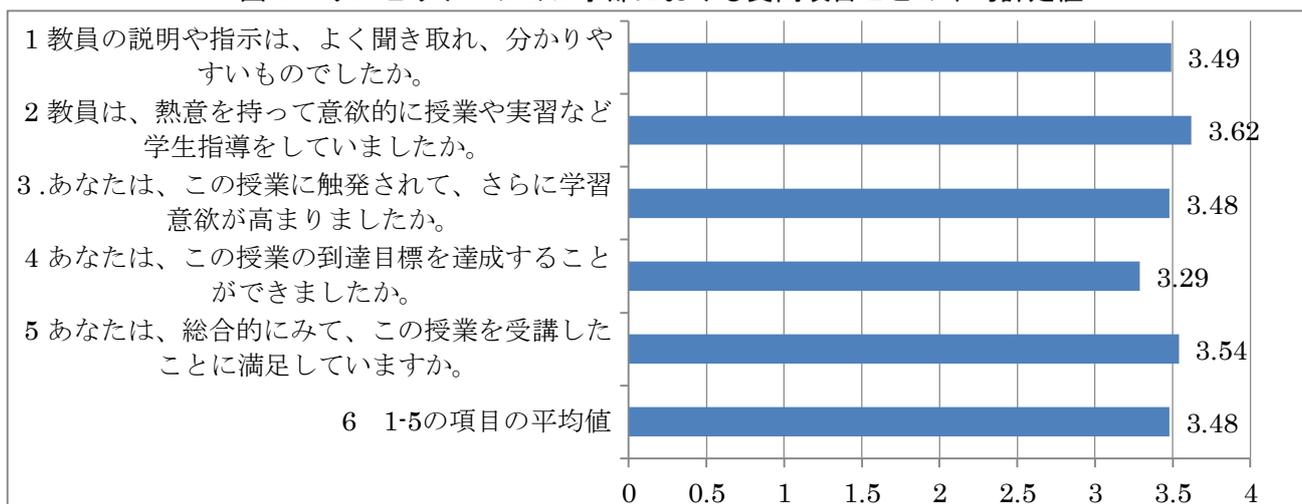
図3 社会福祉学部における質問項目ごとの平均評定



社会福祉学部 FD 委員会のコメント

春セメは、新コロナ禍の遠隔授業のスタートでしたが、質問1・2・5の高い評定値から、タイトな時間でZoom操作を習得し、学生のみなさんへの不利益が最小となるよう教員側が努力し工夫を重ねた結果と思われます。質問3の得点から、学生の遠隔授業と対面授業によるハイブリットな環境においても、PCやスマホ画面、対面授業の混乱も予想したよりも少なかったと思われます。結果、学習意欲の低下にはつながらず前向きに取り組めたのではないかと推察されます。しかし、質問4の到達目標の達成ではやや低い評定値であり、今後の授業ではWebClass等のさらなる活用により、到達度を意識・確認しながら授業を進めていく必要があるでしょう。今回の結果を踏まえ、より良い授業展開ができるように授業改善に努めていきたいと思ひます。

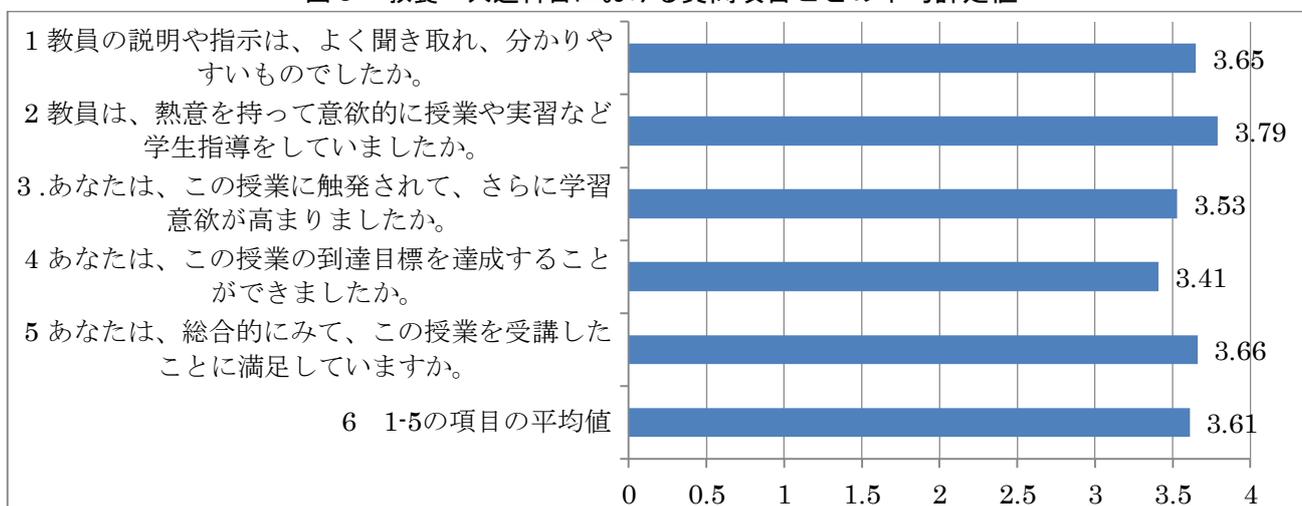
図4 リハビリテーション学部における質問項目ごとの平均評定値



リハビリテーション学部 FD 委員会のコメント

全体的な傾向は、例年通りと言えます。Zoomでの講義が増加したことを踏まえ、オンライン講義の手法を各教員が自助努力した結果と言えるでしょう。しかし、「授業に触発されて、さらに学習意欲が高まった」「到達目標を達成することができたか」の問いは、他の項目に比べてやや低い結果となっています。学生自身が到達できたか否かを実感できるような「形成的評価」「総括評価」のあり方を検討することが必要であると考えています。

図5 教養・共通科目における質問項目ごとの平均評定値



教務部長のコメント

すべての教養・共通科目において授業評価が実施されました。春セメでは遠隔授業で受けている状況にありましたが、授業評価は概ね高い評価を得たと思います。最終評価結果の到達目標については3.5を若干下回ったが、多くの担当教員は学生の主体的な学びにつながる授業を展開していたと考えています。今後も、授業評価を振り返り、さらなる授業改善につなげていきます。